【令和５・６年度検討テーマ】

社会の変化に対応したコミュニティセンターでの社会教育事業の実施方法について

袋井市では、地域を担う人づくりを目的に、地区のまちづくり協議会に社会教育事業（学級・講座）を委託し、コミュニティセンターごとに特色ある講座や学級を実施してきた。

デジタル社会や人生100年時代の到来などで社会が大きく変化し、市民のライフスタイルやニーズが多様化する中で募集や実施方法を工夫して社会教育事業を実施してきたが、参加者の固定化や減少傾向といった課題があるため検討を行った。

	講　座	学　級
課題	・時代の変化に対応した魅力的な講座が求められている。	・参加者が固定化し、新たな学級生を確保できない学級が生じている。 ・学級運営を負担に感じるため、参加を敬遠される。
改善の方向性	・話題や興味や関心で人を集める。 ・新たな学び、出会いの場を創出する。 ・地域の特性を活かして講座を開設する。	・興味や関心をテーマに人を集める。 ・市民目線での「必要性」にフォーカスする。 ・学級の枠組みを見直し、ゆるい付き合い方を実現する。
新たな取組	・様々な人が学ぶ場として多様な企画にチャレンジした。 ・人気が高い発酵食品（味噌や麹）講座の開催。 ・自分が住んでいる地域を見つめなおすため地域の歴史を歩いて学ぶ講座の開催。 ・障害がある人の居場所となる講座の開催。	・副学級長、会計などをなくし、コミュニティセンター職員が事務を補助。 ・家庭教育学級を常設から推奨にし、家庭教育講座を新設した。 ・地域ごと異なる課題にチャレンジする新たなテーマ学級が複数生まれた。 ※詳細は裏面のとおり

テーマ学級の新設
特定のテーマに沿った学習を通して自身のスキルアップや次なる学びを広げる。

講座については、周りのコミュニティセンターの実施状況を情報収集したり、コミュニティセンターを利用している市民からの要望などを聞きながら、いろいろな講座の開催にチャレンジしていくことが必要。

学級については、急激な変化は難しいものの、各コミュニティセンターで実施したテーマ学級の取り組みを検証し、学級生同士の学びと共にほかの団体や市と連携した学びで、地域住民へと学びが広がる取組が求められる。

これからの社会教育（学級・講座）事業として描く姿

学　級

さまざまな主体と連携し、ともに活動する
人との関係性を築く

【つながり】　【交流】

講　座

興味があることを楽しく学ぶ
さまざまな人にコミセンを利用してもらう

【学びの場の提供】

地域コミュニティの核であるまちづくり協議会（コミュニティセンター）で講座や学級という学びの場を提供し、人づくり・まちづくりにつなげる。

これからの取組

【講座】
いろいろな講座の開催にチャレンジ

講座に移行する

【学級】
・少年学級
・家庭教育学級
・高齢者学級
・その他の学級（女性・成人）

良い事例を示し、徐々にテーマ学級に

・社会教育事業が「人づくり・まちづくり」につながるようにコミュニティセンターの職員間、まちづくり協議会で情報を共有する。
・コミュニティセンターで実施している社会教育事業の聞き取りを実施し、市の施策とのマッチングや他のコミュニティセンターの事例を紹介し、事業内容を検討していく。